

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	31 / 2012 / 25
タイトル	新城(青森市)で早春にクロアゲハが飛来 青森市桜川でクロアゲハ採集
著 者 名	五十嵐 正俊 / 山道 忠郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

新城(青森市)で早春にクロアゲハが飛来

第3代 五十嵐 正俊

2012年4月19日13時30分頃、青森市新城の我が家の隣の付近をクロアゲハが飛んでいた。見ていたら足元の方に飛んで来たのでたたき落として捕獲した。とりあえず画像を撮って保管中。本会報前号、前々号で近年、青森で見られるようになった本種について報告されているが、データの蓄積と季節外れの羽化事例ということで活字に留めておく。

飛翔の様子は、当日は晴れてはいたもののヤマセで風は冷たく、アメダス・データ(青森)では最高気温が14.4℃。気温が低いことからかなりふわふわと飛んでいた。風の当たらないところでは地上2m位のところを、風のあたるところでは急に高度が下がって足元に来て簡単に捕獲できた。

個体は新鮮な♂で翅長は50mm、羽化後そんなに飛んでいないものと見受けられた。ちなみに青森地方の2012年の「積雪なし」は4月13日で平年に比べて19日遅く、気温も記録的に低かった。ただし4月中旬に入ってから、気温は平年並みになりアメダス(青森)の最高気温は15日11.1℃、16日12.4℃、17日10.4℃、18日10.4℃。しかしこの程度ではアゲハチョウ類は、低山地に雪消えとともに発生する早春の蝶・ヒメギフチョウを除いては自然状態で羽化できる条件にはない。



[写真1] 新城で2012年4月19日に捕獲されたクロアゲハ♂(裏面)

この個体の羽化前の蛹がどこに付着していたものかは不明である。1)自然状態の枝とかに付着して雪に被われていた。2)家屋の壁面とか軒下で雪に被われなかったが低温にさらされた場所。3)昨年秋に終齢幼虫が住宅に侵入して蛹化、などさまざまなケースが考えられる。1)と2)の場合は低温が続く青森地方では、この時期の羽化は考えにくいことで、3)の場合、室温の上昇で羽化に至り何らかの要因で外に脱出したと考えれば説明はつく。なお、周辺には成虫が蜜を吸えるような花の開花は認められなかった。

青森市桜川でクロアゲハ採集

2012年5月27日14時30分頃、青森市桜川4丁目でクロアゲハを採集した。当日は快晴で道路に面した自宅車庫のシャッター前で飛んでいるのを発見、手元に捕虫網がなかったので手掴みを試みたが捕獲できた。まだあまり飛翔していないような新鮮な個体で♂だった。自宅の庭にはキハダを植えているが、本種が好むミカン類はない。

(14代 山道忠郎)